福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	学校芸術祭事業						事業コード	620102	
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施策名	3 豊かな人間性を育む教育の実践					施策コード	413	
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課				所属長	八瀬 正雄		
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費	会計	01 一般会計	決算附属資料 230 頁
計画期間	開始年度	平成29年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	–		R5現在の状況	継続中
根拠法令等	–								
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）								
関連事業	–								

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	市内小中学校児童生徒が芸術作品の作成や研究に取組み、その作品や研究成果を一堂に集めた展示会を開催する。展示会等では、日ごろの芸術活動や学習、研究の成果を発表し、また、鑑賞することで交流と研鑽をさらに深め、豊かな感性や人間性を育む機会とする。				
対象者	市内小中学校児童生徒教職員及び保護者等	対象者数	13,000	単位あたりコスト	0.2
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	福知山市学校教育振興会と共催、（有）チームワーク				
事業概要（箇条書き）	学校（園）美術展、下村脩グランプリは、感染症対策等に留意しながら、10月15日～17日の日程で開催した。 小学校音楽祭は、新型コロナ感染症拡大防止のため、高校生の演奏を鑑賞する内容で11月22日に実施した。				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
報償費	88	下村脩グランプリ2022受賞盾・第57回福知山市立学校（園）美術展教育委員会受賞メダル
需用費	343	学校園美術展・下村脩グランプリ賞状印刷、第51回福知山市立小学校音楽祭プログラム1055枚購入
役務費	1	学校園美術展 白布 クリーニング
委託料	240	第51回福知山市立小学校音楽祭 運転代行業務委託
使用料及賃借料	378	第57回福知山市立学校（園）美術展・第51回福知山市立小学校音楽祭 厚生会館使用料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,733	1,711	1,697	1,841
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	1,733	1,711	1,697	1,841
予算財源内訳	① 一般財源	867	1,711	1,697	1,841
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	866	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 45	0		
	② 配当予算	1,688	1,711		
	③ 執行額	647	1,051		
	④ 執行率	38.3%	61.4%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／非常勤嘱託職員）	0.24 / 0.00	0.24 / 0.00	/	/
	② 概算人件費	1,920	1,920		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		2,567	2,971		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	種類	実績金額	決算附属資料	頁

Ⅳ 業績指標

	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
成果実績（アウトカム）実績／目標	音楽祭参加者数	人	0 / 800	0 / 800	683 / 800	/ 800	800
	下村脩グランプリ応募作品数	点	0 / 2500	2071 / 2500	1907 / 2500	/ 2500	2500
活動実績（アウトプット）実績／計画	音楽祭開催回数	回	0 / 1	0 / 1	1 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		0.0	0.0	1051.0		
	美術展開催数	回	0 / 1	1 / 1	1 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		0.0	647.0	1051.0		

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	学校（園）美術展は、市内の児童生徒等の優れた作品を一堂に展示し、児童・生徒の学習成果を広く周知する貴重な機会であり、保護者や市民の期待も高いことから、R4年度は開催期間中に3,897人の市民等が来場し、児童生徒、園児の作品を鑑賞した。	☑ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	展示等の準備は、教職員の動員により設営するとともに、開催中の運営についても教職員が交代であたることで経費の削減を図った。	
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	学校（園）美術展と下村脩グランプリについては、感染対策を行うことで展示、表彰式を実施し、日頃の学習や研究の成果を披露する機会を提供できた。 音楽祭は、新型コロナ感染症の拡大防止の観点から、従来の合唱等の発表を高校生の演奏を鑑賞するよう変更して実施した。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	【自己評価】 児童生徒の作品や研究成果を一堂に展示することは、児童生徒の日頃の学習成果等を発信する貴重な場となっている。また、児童生徒が他校の児童生徒の作品展示を鑑賞することは自己研鑽につながり、豊かな感性を育む契機となる教育効果の高い事業である。 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、美術展等の優秀作品には各学年の最高賞のみを表彰することとして式典の効率化を図り、音楽祭については、合唱による「発声」の機会をなくし、高校生の演奏を鑑賞することとする等、工夫して実施できた。（定性的評価） 【現状の課題】 学校（園）美術展・下村脩グランプリの前日準備で、全ての展示作品が掲示されているか確認できなかった。各校が提出した作品が全ての作品という認識であったことから展示作品一覧を準備できていなかった。過去に掲示漏れがあったことからも展示作品一覧表を準備しておくべきだった。		
改 善 策	前日準備の際に展示作品の一覧を各部門の代表に配布し、展示準備完了後に全作品が揃っているか点検確認を行う。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	学校（園）美術展、下村脩グランプリ、音楽祭は、児童生徒の学習成果の発表・交流の場であることから必要な経費を継続して確保する。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☑ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	教職員資質向上事業								事業コード	620110	
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち					政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実			
	施策名	3 豊かな人間性を育む教育の実践							施策コード	413	
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課					所属長	八瀬 正雄			
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費	会計	01 一般会計	決算附属資料	230	頁
計画期間	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	府教職員研修計画 学校教育の重点（府・市）			R5現在の状況	継続中	
根拠法令等	教育基本法 学校教育法 地方公務員法 福知山市教育研究グループ補助金交付要綱										
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）										
関連事業	–										

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	児童生徒の学力向上や豊かな人間性を育む教育を実践するため、教職員の研修機会や研究に要する費用負担を行うことで、教職員の資質向上を図る。				
対象者	市立小中学校児童生徒及び教職員	対象者数	6,527	単位あたりコスト	1.6
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☑ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	京都ユニオンサービス（株）				
事業概要（箇条書き）	・教職員の資質向上のため、教科別研修や人権教育研修等の取組を実施した。 ・教育実践論文「けやき賞」の取組により研究が進められ、表彰や発表の機会等を設けた。 ・教員の自主研究グループに対して補助金を交付し、教育課題に関する研究を支援した。				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
	報償費	92	けやき賞記念品盾、図書券 購入 ・ けやき賞審査員謝礼
	旅費	228	第37回人権啓発研究集会参加
	需用費	212	第64回京都府人権教育研究大会参加資料代 ・ けやき賞 賞状印刷
	委託料、使用料及び賃借料	49	教職員夏季人権研修 運転代行業務、映画館入館料（破戒）
	負担金補助及び交付金	362	福知山市教育研究グループ補助金 ・ 第25回京都府人権・解放保育研究集会参加負担金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,350	1,324	1,273	1,261
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	1,350	1,324	1,273	1,261
予算財源内訳	① 一般財源	1,350	1,324	1,273	1,261
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	0		
	② 配当予算	1,350	1,324		
	③ 執行額	472	943		
	④ 執行率	35.0%	71.2%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／非常勤嘱託職員）	0.50 / 1.80	0.68 / 1.75	/	/
	② 概算人件費	8,500	9,815		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		8,972	10,758		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算附属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	けやき賞応募	人	5 / 5	6 / 5	6 / 6	/ 6	6
			/	/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	人権研修フィールドワーク参加者	人	15 / 20	中止 / 20	21 / 20	/ 20	20
	単位あたりコスト		42.5	0.0	44.9		
			/	/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	学習指導要領（教育要領）の確実な実施や教員の若年化に伴い経験豊富な教員が減少しており教職員の資質向上が求められていることから、教員の研修を継続して実施した。なお、新型コロナウィルス感染症の拡大等により派遣研修の機会は減少していたが、回復傾向にある。	☑ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	全教職員の研修参加が困難なため、各研修の参加者が各校において伝達研修を行うことで、効率的な研修につながるよう努めた。	
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	教育実践論文「けやき賞」では、各校の研究内容や各教科・領域における教職員の取組を執筆者が論文にまとめた。優秀者には表彰を行い、教員の研修会の場で発表したり、教員のポータルサイトに論文を掲載したりする等、より良い教育実践のための普及に努めている。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	【自己評価】 計画的な研修の実施や教育実践論文「けやき賞」の取組等を行うとともに、これらの成果を広く発信することで教職員の資質向上につなげている。 【現状の課題】 新型コロナウィルス感染症の拡大等により派遣研修による研修機会が減少していたが、回復傾向にあるため研修機会を充実させる必要がある。 教育課題が多様化する中にあって、さらに教職員の指導力、資質向上が求められており、より計画的、系統的な研修の実施と研修機会の確保、効果的な発信、波及につながるよう研修内容や方法を改善していく必要がある。		
改 善 策	研修は、内容の精選を行いつつ、オンラインやオンデマンド等の様々な研修方法を工夫し、研修機会や伝達研修の場を適切に設定する。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☑ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	研修は、教科別研修や人権研修についてオンライン参加など受講方法を工夫しながら実施する。現地研修やグループ研究を進める取組にかかる経費など教員の資質向上に不可欠な予算を確保する。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☑ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	学校運営事業						事業コード	620111	
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施策名	3 豊かな人間性を育む教育の実践					施策コード	413	
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課				所属長	八瀬 正雄		
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費	会計	01 一般会計	決算附属資料 230 頁
計画期間	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	–		R5現在の状況	継続中
根拠法令等	–								
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）								
関連事業	–								

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	学校が展開する教育活動を全市統一的に実施することで、学校運営の平準化、効率化を図り、豊かな学びの機会を保障する。				
対象者	教職員及び児童（新小中1年生・小学3・4年生）	対象者数	2,921	単位あたりコスト	1.3
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	有限会社チームワーク				
事業概要（箇条書き）	①【理科教育推進事業】 学習指導要領第4学年理科に規定されている、植物の成長と環境との関り、月や星についての理解等に関する基本的な知識を身に付けるため、全市立小学校4年生を対象に児童科学館と植物園を使用した学習を実施する。 ②【小中学校社会科見学等教職員入場料】 修学旅行や社会見学等における引率教員の入場料及び拝観料を負担した。 ③【社会科副読本】 社会科副読本「のびゆく福知山市(第3・第4学年用)」を編集し電子書籍化した。 ④入学通知・学齢通知を行うとともに新小学1年生の保護者へ入学に向けての準備パンフレットを作成し啓発を行った。				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
需用費	1,158	小学校社会科副読本「のびゆく福知山市」の編集及び電子書籍購入、入学通知用用紙ほか
委託料	285	児童科学館及び植物園での学習に伴うスクールバス運転代行委託料
使用料及び賃借料	437	修学旅行及び校外学習における引率教員の入場料及び拝観料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,316	2,670	1,405	1,964
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	1,316	2,670	1,405	1,964
予算財源内訳	① 一般財源	1,316	2,670	1,405	1,714
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	250
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	0		
	② 配当予算	1,316	2,670		
	③ 執行額	230	1,880		
	④ 執行率	17.5%	70.4%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／非常勤嘱託職員）	0.19 / 0.00	0.24 / 0.00	/	/
	② 概算人件費	1,520	1,920		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		1,750	3,800		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算附属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	プラネタリウム植物園見学実施率	%	実施なし / 100	実施なし / 100	100 / 100	/ 100	100
			/	/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	プラネタリウム植物園見学の参加率	%	実施なし / 99	実施なし / 99	94.4 / 99	/ 99	99
	単位あたりコスト		0.0	0.0	19.9		
			/	/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	理科教育及び社会科教育課程において、身近な地域を通して教育活動を行うとともに、調査活動や具体的資料を通して必要な情報を調べまとめる技能を身につけること及び地域社会の一員としての自覚を養うことを目的とした事業である。令和4年度は隔年実施の社会科副読本編集作業及び電子書籍化を行い、最新の情報を反映させた。また、社会見学における引率教員の入場料や入館料の補助を行った。児童科学館と植物園を使用した学習については、教育課程に組み込むことによって、対象学年全児童を対象に実施した。教育委員会が主体となり実施することにより学校事務や学びの平準化及び効率化を図った。	□ 高い ☑ やや高い □ やや低い □ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・各施設等の減免措置を積極的に利用し、最小限のコストで実施している。	
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・市内の児童生徒が平等に学びの機会を享受できるよう、児童科学館と植物園を使用した理科学習や社会科副読本を活用した社会科学習を行っている。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	【自己評価】 地域と連携しながら体験学習等を実施することにより、地域学習の充実に寄与している。 社会科副読本を活用して学ぶことで、より分かりやすく豊かな地域学習ができている。 【課題】 社会科副読本は、改定の都度、文言の修正を行っているが、細部については見直すべき点が多い。		
改 善 策	学習指導要領や地元学習との兼ね合いを考えたうえで、福知山市が全国的にPRしている事項等、最新の内容を含めるべきかについて、令和6年度に開催する社会科副読本編集委員会にて検討するため、事前準備を進めていく。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☑ 事業の見直し □ 統合／組換 □ 廃止／休止 □ 事業の見直しなし	理科教育支援事業や教職員の引率に伴う入場料・拝観料等の負担軽減については、今後も継続して実施していく。 社会科副読本の改訂については、2年毎に社会科副読本編集委員会を開催し、数か月で見直し作業を行っていたが、今後は教科書改訂を行った年に1年かけて検討を行い、翌年度に改訂することとした。 また、教職員の魅力向上に係る啓発や事業改善等に係る取組を行うこととする。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	□ 現状維持　□ 廃止/休止　☑ 予算拡充　□ 予算縮減 □ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　□ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	教育研究事業						事業コード	620112	
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施策名	3 豊かな人間性を育む教育の実践					施策コード	413	
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課				所属長	八瀬 正雄		
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費	会計	01 一般会計	決算附属資料 230・232 頁
計画期間	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	–		R5現在の状況	継続中
根拠法令等	–								
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）								
関連事業	–								

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	教員の意欲・指導力・授業力の向上及び教育活動の充実を図ることにより、豊かな人間性を育む教育を実践する。				
対象者	教職員（幼稚園、こども園含む）	対象者数	609	単位あたりコスト	4.2
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☑ その他 （ 負担金支出 ）				
委託先・実施主体等	学校教育振興会、各教育研究会				
事業概要（箇条書き）	①【学校教育振興会 全員研修会】 全教職員を対象とした研修会を実施。令和4年度は、特別支援教育研究部が実践発表会を、生徒指導研究部が教育講演会を実施した。 ②【学振各研究部会活動費】 教職員の自主的な教育研究活動に要する費用の一部を負担した。 ③【府各研究会負担金及び会費】 京都府小学校教育研究会負担金・京都府中学校教育研究会負担金・全国学校図書館教育研究会負担金・京都府人権教育研究協議会の負担金及び会費				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
	報償費	86	学振研究部・全員研修会 講師謝礼
	旅費	13	学振研究部・全員研修会 講師旅費
	需用費	171	学校教育振興会に係る消耗品及び学振だより印刷製本等
	使用料及び賃借料	83	学振全員研修会会場使用料
	負担金補助及び交付金	299	各京都府研究会及び協議会の負担金等

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,031	1,008	973	939
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	1,031	1,008	973	939
予算財源内訳	① 一般財源	1,031	1,008	973	939
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	0		
	② 配当予算	1,031	1,008		
	③ 執行額	682	652		
	④ 執行率	66.1%	64.7%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／非常勤嘱託職員）	0.19 / 0.00	0.24 / 0.00	/	/
	② 概算人件費	1,520	1,920		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		2,202	2,572		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算附属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
			/	/	/	/	
			/	/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	学校教育振興会全員研修参加率	%	実施なし / 85	46.4 / 85	75.4 / 85	/ 609	85
	単位あたりコスト		0.0	2.6	8.6		
			/	/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	研究活動を盛んにし、教職員の資質の向上及び教育力を高めることを目的とする学校教育振興会及び各種研究会に係る経費の一部を支援し、本市の学校教育の充実を図り、また活動に係る学校事務を効率化することができる。学校事務研究部、養護研究部などの課題別研究部や各種教科等研究部など学校単位ではできない横断的な教育研究活動も実施している。 令和4年度は、全員研修を実施したり、各研究部において課題別研究を行い、実践発表会や研究発表会を開催したり、活動等をまとめた学振だよりを発行した。	☑ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・各種発表会等を令和元年度より一本化し、人的及び経費コストを削減している。 ・事前に予算執行に係る事業計画書の提出を受け、真に必要な購入等であるか審査している。	
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・全教職員の活動実績を比較できる指標として、全員研修会の参加率を活動実績とした。令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため参加人数を制限していたが、令和4年度は昨年度より多くの教職員が参加できた。研修会の内容は、学振だよりを活用して全教職員へ周知した。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	【自己評価】 学校教育振興会や京都府小学校教育研究会等は全教職員が加入している組織であり、様々な課題や教科毎に研究を行い、その取組や成果を共有しており、福知山市の教職員全体の資質向上に寄与している。 また、学校単位ではない横断的な組織であるため、本市のみならず府下や全国の動向を知る機会となっている。（定性的評価） 【現状の課題】 令和4年の全員研修会は通常定員で実施することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により参加できなかった教職員もいたため、次年度は、より多くの教職員が参加できるよう工夫したい。		
改 善 策	新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、より多くの教職員が参加できるよう開催に係る判断を適切に行うとともに、状況に応じてリモートによる参加や研修内容の共有のための工夫を図る。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	教職員全体の資質向上のために、必要不可欠な事業である。 今後も学校教育振興会の活発な活動を支援していきたい。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☑ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	響プランF心の充実事業						事業コード	620212	
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施 策 名	3 豊かな人間性を育む教育の実践					施策コード	413	
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課				所属長	八瀬 正雄		
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費	会計	01 一般会計	決算附属資料 232 頁
計画期間	開始年度	令和3年度	終了予定年度	令和7年度	関連計画名	「響」プラン・F（学校教育内容充実推進プラン）		R5現在の状況	継続中
根拠法令等	–								
事業区分	☐ 法定受託事務	☑ 国府補助事業	☑ 市単独事業	☐ 内部庶務的事業	☐ その他 （ ）				
関連事業	福知山ラーニングイノベーション・プロジェクト								

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	響プランF（福知山市立学校教育内容充実推進プラン）に基づき、ふるさと福知山で育つ子どもたち一人一人が自らの可能性をしっかり伸ばし、年々変化、発展するこの時代・社会をたくましく生きていく力を育てるため、芸術や文化、大学見学や職業体験によるキャリア教育等、様々な体験機会を充実させることで、豊かな人間性を育んでいく。				
対象者	市立学校児童・生徒	対象者数	6,009	単位あたりコスト	3.1
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	(株)日本旅行、（有）慶和、（有）チームワーク				
事業概要（箇条書き）	・「本物」の芸術・文化体験・・・小学4年生対象（博物館等見学・体験活動）、中学1年生対象（劇団四季の観劇） ・体験に要するスクールバス運行・・・施設見学や大学・高校見学等 ・各校における心の充実体験活動（講座等）				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
報償費	742	総合的な学習の時間講座、命の授業、キャリア講演、人権講演謝礼
旅費	24	子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業講師招へい旅費
役務費	1	郵送料
委託料	13,628	スクールバス特別運行業務、「本物」の芸術体験実施業務（小学校4年生・中学校1年生）
使用料及び賃借料	34	タクシー代

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	17,396	18,441	21,879	24,877
	② 補正予算	△ 10,030	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	7,366	18,441	21,879	24,877
予算財源内訳	① 一般財源	6,526	17,791	10,585	12,439
	② 国支出金	0	0	0	12,438
	③ 府支出金	840	650	11,294	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 154	△ 381		
	② 配当予算	7,212	18,060		
	③ 執行額	5,063	14,428		
	④ 執行率	70.2%	79.9%		
人概工算	① 従事職員数（正職員 / 非常勤嘱託職員）	0.46 / 0.00	0.51 / 0.00	/	/
	② 概算人件費	3,680	4,080		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		8,743	18,508		

主な利用特財（N－1年度実績値）

特財名称	種類	実績金額	決算附属資料	頁
豊かな学び・文化体験活動推進事業	教育費府補助金	707	30	
響プランF心の充実事業（きょうと地域連携交付金）	教育費府補助金	3,058	32	

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	小6全国学力状況調査回答率（自分のよいところがあると思う）	%	0 / 0	76.4 / 70	86.7 / 100	/ 100	100
	中3全国学力状況調査回答率（将来の夢や目標を持っている）	%	0 / 0	66 / 70	67.8 / 100	/ 100	100

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	体験活動の参加率	%	0 / 0	60 / 95	97 / 100	/ 100	100
	単位あたりコスト		0.0	84.4	148.7		
			/	/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	福知山市立学校教育内容充実推進プラン「響」プラン・Fに基づき、小学校4年生を対象とした京都の伝統文化を学ぶ見学や創作体験の実施、また、中学1年生を対象とした劇団四季ミュージカル観劇の実施により、児童生徒にとって満足度の高い体験活動を提供でき、豊かな人間性を育む貴重な機会となった。	☑ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	児童生徒が全校で同様の体験活動ができるよう市が実施主体となる取組と、学校が創意工夫を凝らし、地域人材や保護者の協力を得ながら実施する取組を並行して進めることでコストの削減や効率化を図った。	
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	小学生の体験では、児童が事前に机上で学習してきた京都の伝統文化等について実際に体験学習することで身近に感じ、文化の継承を願う契機となった。また、中学生の観劇では、リアルな舞台芸術と舞台を創る多くの関係スタッフの役割等を学び、豊かな心や感性を育む契機、キャリア教育のひとつとなった。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	【自己評価】 「本物」の芸術・文化体験について、小学4年生は京都の伝統文化等を学ぶ見学や創作体験を、中学1年生は劇団四季のミュージカル観劇を計画通り実施することができ、実施後のアンケートからも児童生徒の満足度も高く、学校からも高い評価を得た。 また、各校毎に取り組んだその他のキャリア教育や心の充実体験に関する取組等についても、おおむね予定どおり実施でき、本事業の目的である児童生徒の豊かな心や人間性を育む契機となった。 なお、R4から債務負担行為の設定によって年度開始前からの準備を行い、円滑な事業実施ができた。（定性的評価） 【現状の課題】 本物の芸術・文化体験について小・中学校教員と中学1年生に体験活動のアンケート（評価）を実施できたが、小学校4年生を対象としたアンケートを実施できていない。		
改 善 策	令和5年度は、小学校4年生を対象にタブレットを利用して体験活動のアンケートを実施し、アンケート結果を事業の継続や改善に活かしていく。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	アンケート結果により、令和4・5年度に実施した中学1年生の「本物」の芸術・文化体験（劇団四季の観劇）、小学5年生の体験活動（SDGs工場見学）、小学4年生の体験活動（博物館見学と創作体験）は、学校・児童生徒にも好評で、現地でこそ得られるリアルな体験が豊かな心や人間性を育む契機につながることから、引き続き、各種体験活動に必要な予算を要求する。増額理由は、令和5年度途中から貸切バスの運賃の見直しが実施され、貸切バスの下限価格が上昇したことにより前年度と比べて増額となった。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	いじめ根絶対策事業							事業コード	620402	
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち					政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施 策 名	3 豊かな人間性を育む教育の実践						施策コード	413	
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課					所属長	八瀬 正雄		
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費	会計	01 一般会計	決算附属資料	236 頁
計画期間	開始年度	平成18年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	–			R5現在の状況	継続中
根拠法令等	いじめ防止対策推進法									
事業区分	☐ 法定受託事務 ☑ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）									
関連事業	–									

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	児童生徒や保護者をはじめ、社会全体で自他の命の大切さを見つめなおす機会を設定し、いじめ等の人権侵害の根絶を図る。				
対象者	市内児童生徒及び保護者・教職員	対象者数	13,000	単位あたりコスト	0.3
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	・子どもを取り巻くいじめ問題、特にネットトラブル防止を目的とした児童生徒や保護者向けの講座を市内10校で実施した。 ・いじめ根絶月間の11月にいじめ防止講演会を開催し、保護者や教職員が見識を深めた。 ・いじめ防止対策委員会を年2回開催した。				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
報酬	120	福知山市いじめ防止対策委員会 委員報酬
報償費	413	ネットトラブルストップ講座 ・ 福知山市いじめ防止講演会 講師謝礼
旅費	52	ネットトラブルストップ講座 ・ 福知山市いじめ防止対策委員会 講師旅費
需用費	25	いじめ防止講演会色上質紙
役務費、使用料及び賃借料	31	郵送料、いじめ防止講演会吊看板及び垂れ幕代

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	649	724	1,129	1,169
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	649	724	1,129	1,169
予算財源内訳	① 一般財源	132	254	323	329
	② 国支出金	0	0	0	840
	③ 府支出金	517	470	806	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	0		
	② 配当予算	649	724		
	③ 執行額	535	640		
	④ 執行率	82.4%	88.4%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／非常勤嘱託職員）	0.30 / 0.20	0.29 / 0.20	/	/
	② 概算人件費	2,900	2,820		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		3,435	3,460		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	自殺対策事業（いじめ根絶対策事業）	種類	教育費府補助金	実績金額	412	決算附属資料	30	頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標

指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
いじめ認知件数（小中計）	件	1927 / 2000	1758 / 2000	1827 / 2000	/ 2000	2000
		/	/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画

指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
いじめ講演会開催回数	回	1 / 1	1 / 1	1 / 1	/ 1	1
単位あたりコスト		423.0	535.0	640.0		
巡回講演開催回数	回	10 / 10	10 / 10	12 / 12	/ 12	12
単位あたりコスト		42.3	53.5	53.3		

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	市民（保護者）、学校、市教委の連携によって、ネットトラブルをテーマとした講座や地域に開かれた学校に関する講演会の開催等、いじめ根絶に向けた取組みを行うことができた。いじめについては、社会的な課題であり、子どもたちの人権や学習権を守るため、いじめ根絶に向けた取組が重要である。	☑ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	講演会等の開催により、広く参加を呼びかけながら啓発を行うとともに、府補助金を活用して市のコストを削減している。	
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	福知山市いじめ防止基本方針のもと、いじめ根絶に向けた啓発の取組や認知したいじめへの早期対応に努めており、児童生徒の生命や安全に関するような重篤な案件は発生していない。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	【自己評価】 いじめ根絶に向けた啓発活動及び児童生徒、保護者、教職員への学習機会の設定や指導等の実施によって、事業目的に応じた取組ができた。また、認知したいじめについては早期に対応することにより、児童生徒の生命や安全を脅かすような重篤な案件には至っておらず、いじめの防止、いじめ根絶に向けての取組が継続できている。		
改 善 策	いじめ防止基本方針が実効性のある対応方針となるよう適切な見直しを行い、教職員間での情報共有や市民等への周知に継続して取り組む。 定期的にいじめ防止対策委員会を開催するとともに、いじめを起因とした不登校等の事案が発生した場合には、速やかにいじめ防止対策委員会委員からの意見等を聴取し、適切な対応につなぐこととする。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	令和5年度と同様にいじめ根絶に向けて、いじめ防止対策委員会、いじめ防止講演会、ネットトラブルストップ講座、CAPプログラムを取り組ために要する経費を予算化する。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	少年補導センター運営事業							事業コード	610106	
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実			
	施 策 名	3 豊かな人間性を育む教育の実践						施策コード	413	
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課				所属長	岸見 貴志			
会計情報	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算附属資料	246 頁
計画期間	開始年度	昭和47年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名				R5現在の状況	継続中
根拠法令等	福知山市少年補導センター条例									
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）									
関連事業										

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	次代を担う青少年が、より確かな人格形成と人間としての温かさ、思いやりのある豊かな心、創造性を培うことができる地域づくりを推進する。				
対象者	市内の青少年	対象者数	14,000	単位あたりコスト	0.3
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	○街頭補導活動（官公庁の閉庁日を除く毎日）、特別補導活動（暴走族対策）（3回/年）、列車補導活動（1回/年）、社会環境浄化活動（1回/年）、啓発活動（3回/年） ○相談活動 ○補導委員研修				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
	報酬	72	少年補導センター運営委員報酬
	報償費	818	少年補導委員街頭補導活動出務謝礼
	需用費	54	活動冊子作成、少年補導委員証等
	役務費・旅費	50	郵送料、職員旅費
	使用料及び賃借料・旅費	1	福知山市役所来庁者駐車場 定期券（パスカード）利用料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,242	1,239	1,229	1,240
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	1,242	1,239	1,229	1,240
予算財源内訳	① 一般財源	1,242	1,239	1,229	1,240
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	△ 41		
	② 配当予算	1,242	1,198		
	③ 執行額	953	995		
	④ 執行率	76.7%	83.1%		
人概工算	① 従事職員数（正職員 / 非常勤嘱託職員）	0.05 / 0.00	0.06 / 1.19	/	/
	② 概算人件費	400	3,455		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		1,353	4,450		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算附属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	注意助言件数（少年補導委員）	人	6 / 0	21 / 0	12 / 0	/ 0	0
			/	/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	少年補導活動回数（少年補導委員）	回	244 / 300	197 / 300	181 / 300	/ 300	300
	単位あたりコスト		4.5	4.8	5.5		
	年間少年補導活動延べ人数（少年補導委員）	人	830 / 900	661 / 850	619 / 850	/ 850	850
	単位あたりコスト		1.3	1.4	1.6		

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必　要　性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・教育のまち福知山を標榜する本市にとって、青少年の健全育成・非行防止は最重要課題である。少年補導センターは、52年にわたり一貫して「愛の一声」運動による青少年の健全育成と非行防止活動を継続している。	□ 高い ☑ やや高い □ やや低い □ 低い
効　率　性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・補導委員77名を旧市内、旧三町の活動エリアに適切に分けて、原則1ヶ月1人2回、1回に3～5人の委員を配置して、補導や啓発の活動を的確に行ってきている。	
有　効　性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・街頭補導活動を年間181日、述べ619人が従事。結果12人の少年に対して声かけを行うことができ、非行の未然防止につながった。 ・補導委員から近畿少年補導功労者表彰が1名、京都府青少年健全育成功労者等知事表彰を2名がそれぞれ受賞した。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	○青少年の声かけについては、公園等でのスケートボードの危険行為が多くみられ、件数が増加した。今後も関係機関等と協力し、対応する。 ○活動実績については、コロナ禍で活動回数、延べ人数ともに減少したが、両方とも50%は超えており、一定の評価はできる。委員の皆さんも他に仕事があり、急激な増加は望めないものの、活動計画やシフトを見直し、活動人員や回数の増加を行う。		
改　善　策	○毎日、市内各所において街頭補導活動を実施する。 ○学校、関係機関との情報交換を行い、連携強化を図る。 ○補導委員の意識向上のため、警察官による少年非行現状の講話研修を行う。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	□ 事業の見直し □ 統合／組換 □ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	今後も補導委員の協力を得て、青少年の非行防止に努めていく。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　□ 廃止/休止　□ 予算拡充　□ 予算縮減 □ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　□ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	青少年健全育成事業							事業コード	610204
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施 策 名	3 豊かな人間性を育む教育の実践						施策コード	413
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課				所属長	岸見 貴志		
会計情報	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算附属資料 246 頁
計画期間	開始年度	昭和28年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名			R5現在の状況	継続中
根拠法令等	地方青少年問題協議会法、福知山市青少年問題協議会条例、福知山地区更生保護協会活動補助金交付要綱								
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）								
関連事業									

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	家庭と地域・学校が連携しながら、市民総がかりで次代を担う青少年が心豊かに安心して暮らせる環境づくりに努めるとともに、社会の一員として地域活動やボランティア活動に積極的に参加できる人材を育成する。				
対象者	市の将来を担う子ども達	対象者数	14,000	単位あたりコスト	0.2
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☑ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	福知山地区更生保護協会				
事業概要（箇条書き）	○青少年問題協議会の運営（年1回） ○青少年健全育成大会の開催（年1回） ○「青少年を非行から守り健全に育てる運動」等の啓発活動（年1回） ○啓発用懸垂幕の掲載				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
	報酬	72	青少年問題協議会委員報酬
	報償費	1	少年の主張発表者贈呈用図書カード
	需用費	32	表彰用物品、賞状用紙等
	役務費	137	屋内壁面公告掲載料、青少年健全育成大会横断幕設置、筆耕料等
	負担金補助及び交付金	103	更生保護協会活動補助金、年会費等

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算	406	389	389	424
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0		
	小計（①～③）	406	389	389	424
予算財源内訳	① 一般財源	406	389	389	424
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	△ 28		
	② 配当予算	406	361		
	③ 執行額	337	345		
	④ 執行率	83.0%	95.6%		
人概工算	① 従事職員数（正職員 / 非常勤嘱託職員）	0.19 / 0.00	0.28 / 0.04	/	/
	② 概算人件費	1,520	2,340		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		1,857	2,685		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算附属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	健全育成大会参加者数	人	中止 / 150	23 / 150	91 / 150	/ 150	150
			/	/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	健全育成大会開催	回	0 / 1	1 / 1	1 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		0.0	337.0	345.0		
			/	/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必　要　性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・市民の力で次代を担う青少年の健全育成は自治体の大きな課題であり、必要性は高い。令和4年度においても、青少年健全育成大会を開催し、青少年を非行から守り健全に育てる運動を行った。	□ 高い ☑ やや高い □ やや低い □ 低い
効　率　性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・青少年健全育成活動推進者表彰等により、市民への啓発等が行えている。 ・11月に（公）京都府青少年育成協会市町村訪問があり、福知山市と京都府全域の青少年健全育成に関する情報や活動等について、現状報告及び意見交換を行った。	
有　効　性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・3年ぶりに青少年問題協議会を書面決議ではなく対面で開催した。街頭啓発はコロナ感染拡大防止のため、中止とした。 ・保護者や青少年健全育成関係者が一堂に会する青少年健全育成大会は、3年ぶりに従来通りのプログラムにて開催した。（当日悪天候により一部予定していたプログラムを変更）	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	○3年ぶりに青少年問題協議会の対面開催、従来通りのプログラムにて青少年健全育成大会を開催した。多くの方に参加していただくため、大会の重要性や開催についての広報を行う。 ○青少年を取り巻く問題は、日々変化しているため、常に現状を把握し、現状にあった課題・対応策を青少年問題協議会の意見を踏まえ啓発活動などを実施し、青少年の健全育成活動を促進していく。		
改　善　策	○行政や青少年健全育成関係者だけでなく、子育て中の親の学ぶ場として、青少年健全育成大会のプログラム構成（保護者を対象としたネットトラブル対策や薬物乱用の防止・根絶についての啓発）など、現代の青少年問題解決に効果的な内容への見直しが必要である。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☑ 事業の見直し □ 統合／組換 □ 廃止／休止 □ 事業の見直しなし	次代を担う青少年に係わる保護者・教職員・関係諸団体が一堂に会する青少年健全育成大会において、現代的課題等の解決や健全育成の重要性について共通理解し、学び合う場を保障するために事業を継続する。令和6年度は、より多くの市民の関心を得られるような講演等、プログラム構成を見直し大会開催効果を更に広げていきたい。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	□ 現状維持　□ 廃止/休止　☑ 予算拡充　□ 予算縮減 □ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　□ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）

福知山市 令和５年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	学校給食センタージビエ活用事業							事業コード	621559
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施策名	3 豊かな人間性を育む教育の実践						施策コード	413
事業担当	所属	60060000 教育委員会 学校給食センター				所属長	村瀬 勝子		
会計情報	款	10 教育費	項	06 保健体育費	目	03 学校給食費	会計	01 一般会計	決算附属資料 266 頁
計画期間	開始年度	令和4年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	–		R5現在の状況	継続中
根拠法令等	–								
事業区分	☐ 法定受託事務 ☑ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）								
関連事業	–								

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（施策実現に向けて事業が果たす役割）	福知山市学校給食センターでは地産地消を推進し、児童生徒及び教職員に地元の産物や多様な食文化への理解を深めてもらうことを目的とし、シカやイノシシなどのジビエを使用した献立を学校給食に提供する。 食材はジビエの認証施設で処理加工された安心・安全な地元産を使用し、食材費の一部を負担する。				
対象者	市立小中学校の児童生徒及び教職員	対象者数	6,610	単位あたりコスト	0.4
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☑ その他 （ 負担金支出 ）				
委託先・実施主体等	福知山市学校給食会				
事業概要（箇条書き）	・年2回を目標に学校給食に提供する ・その内、1回はドッコイセ大使である杉本シェフ考案のジビエを使ったメニューを提供する ・通常使用している食材とジビエ食材との差額分を福知山市学校給食会へ負担金として支出する ・食材の調達や献立については福知山市学校給食会が行う				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R4）	主な業務内容
負担金補助及び交付金	701	ジビエ活用事業負担金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R3（評価前年度）	R4（評価年度）	R5（本年度）	R6（要求年度）
予算情報	① 当初予算		875	875	1,400
	② 補正予算		0	0	0
	③ 繰越予算		0	0	0
	前年度繰越		0	0	
	次年度繰越		0		
	小計（①～③）		875	875	1,400
予算財源内訳	① 一般財源		875	875	1,400
	② 国支出金		0	0	0
	③ 府支出金		0	0	0
	④ 地方債		0	0	0
	⑤ その他特財		0	0	0
決算情報	① 流充用額		0		
	② 配当予算		875		
	③ 執行額		701		
	④ 執行率		80.1%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／非常勤嘱託職員）	/	0.25 / 0.10	/	/
	② 概算人件費		2,250		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）			2,951		

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	学校給食センタージビエ活用事業（きょうと地域連携交付金）	種類	教育費府補助金	実績金額	189	決算附属資料	32	頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標

指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
提供回数	回	/	/	2 / 2	/ 2	2
		/	/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画

指標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
地元産ジビエの活用	回	/	/	2 / 2	/ 2	2
単位あたりコスト				350.5		
		/	/	/		
単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地産地消や多様な献立に対応し、食文化への理解を深めるために学校給食に地元産のジビエを食材として活用し提供した。	☑ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	通常の食材との差額分を負担金として支出することで最低限の支出にとどめた。	
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	ジビエ食材を地元の業者から仕入れることで地元の産業に貢献できた。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	事業は2年目であり、ジビエについて理解され給食メニューとして受け入れられていると思われる。 狩猟期間が限られること、学校給食には一定の量が必要となることや仕入れ先の確保の課題があるが、地元産のジビエを使い提供する。		
改 善 策	1人1食あたり25g使用するとして給食メニューに提供しているが、提供するメニューによっては量が少なく存在感が感じられない懸念もあるため、次年度以降は1人1食あたり40g～50g程度提供する。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	事業評価実施後に記載（対象事業のみ）

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	・引き続き、福知山市学校給食センターでは地産地消を推進し、児童生徒及び教職員に地元の産物や多様な食文化への理解を深めてもらうことを目的とし、シカやイノシシなどのジビエを使用した献立を学校給食に提供する。 ・現行の1人1食あたり25gのジビエ使用では、提供するメニューによっては量が少なくメニューの幅を広めるため、令和6年度以降は1人1食あたりの使用量を増量する。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☑ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　　）